

高校向け「新たなせんきょ体験授業」検討PT

第3回会議 要点録

日時 令和4年1月27日（木）18時30分～20時20分
場所 札幌市役所本庁舎地下1階 第5号会議室
出席者 青塚委員、高橋委員、渡邊委員、柳野委員、佐藤委員（座長）、
宮腰委員（オブザーバー委員）

1 開会

2 実践概要報告について

資料1～3に基づき、清田高校での実践概要について報告を行った後、それらを20分程度に編集した検証用動画を視聴した。

3 実践を踏まえた改善点について

資料4～6に基づき、改善点について意見交換を行った結果、基本的に事務局提示の対応方針へ賛同があった中で、次のとおり、幾つか論点も抽出されたので、それも踏まえて検討を進め、最終報告書を作成することとなった。

なお、資料6については、授業を実施する学校ごとに原案をアレンジして活用する前提で、引き続き、委員から意見を募集し、ブラッシュアップを図ることとなった。

ア 「自分なりの選択基準を持つ」場面の時間配分について

15分の時間配分に対して、5分程度で既に投票先の選定を終えている生徒がいたこともあり、この場面の時間配分を5分短縮する方向性が示されているが、経験上、そういう個人ワークでは個人差がすごくあるものなので、あまり時間を切り詰めない方がいいという意見があった。

イ 「過去の結果と校内の結果を比較しながら振り返る」場面の質問の仕方について

過去の選挙結果と校内の開票結果を比較する活動において、生徒には資料の読取力を問う設問だと受け止められてしまったということだが、校内の開票結果が出るまでの間に行う「過去の選挙結果から何が読み取れるかを発表し合う活動」と、開票結果が出てから行う「双方の結果比較の活動」とは、別の活動だと生徒に受け止められるよう、質問の仕方を工夫すればいいのではないかという意見があった。

ウ 過去の選挙結果の年代別投票傾向について

過去の選挙結果の年代別投票傾向については、公益財団法人明るい選挙推進協会の調査結果を使用しているが、サンプル数が少ない。報道機関によるサンプル数の多い出口調査の結果を使用した方がブレが少ないのではないかという意見がある一方で、各社が戦略的に実施する出口調査の結果よりも公益財団法人の調査結果の方が中立性確保の面から安心感があるという意見もあった。

4 閉会